

横浜市大佛次郎記念館 平成 28 年度指定管理業務（外部評価）

| | 金委員 | 富岡委員 | 中島委員 | 八ッ橋委員 | 米本委員 |
|-----------|---|--|--|--|---|
| I 文化事業 | <p>【評価できる点】 様々な層に向けた企画が実施された点が大変良かったです。その結果が年間観覧者数の大きな伸びにも反映されたと思われれます。 事業視察を通して、展示は毎回、内容の大変濃いもので満足度の高いものでした。現在、10 人以上で来場した団体の方々に事前予約があれば記念館スタッフが館内展示案内をおこなっているようですが、大変よい取り組みだと思えます。 地域とのネットワークを構築できている点が良いです。近隣小学校の小学生ミニ・ビブリオバトル参加など今後も長期的に継続できることを望みます。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 報告書によると、新規事業を企画・開催したことに伴い業務過多となったこと、マンパワー不足により着手できなかった項目があったことが記されていましたが、文化事業の長期継続推進を考えたときに、人員体制を早い段階で検討する必要があると思われれます。</p> | <p>【評価できる点】 大佛次郎の文学と人を紹介し、その存在の歴史的な意味を十分に呈示している。テーマ展示「鞍馬天狗ワンダーランド—昭和のあそび」「時間を切り取る画家 ポール・ルヌアール」など大佛次郎の多面性を積極的に展開している点が評価できる。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 大佛の文学その他の資料の発掘・整理を進めるための人材等の用意が急がれる。</p> | <p>【評価できる点】 一つひとつの取組みが当施設の設置趣旨を具体化する上で価値があり、さらに施設の周知にも繋がったと思います。特に、『資料の保存管理：整理手順がフローチャート化されたこと』、『レファレンス：目標を上回り達成できたこと』、『観覧者数：「ねこ写真展」の新規性・独自性と新たな来館者獲得や出版についても事業貢献に繋がったこと』、『旧蔵SPレコードコンサートの企画内容と新たな来館者獲得』を評価します。また、広報活動において地域媒体やWEB、SNSを活用し積極的に運営している点を評価します。ただし、フォロワー数がまだ少ないのでこれから期待します。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 HP への収蔵資料目録の 700 件以上の掲載は、精緻な実行計画の立案をお願いします。 環境保全：虫菌害への対応や保管・展示のあり方について、設置者及び館内スタッフの理解と協力を得るために、情報共有を進めてください。 テーマ展示の質の良さに対して入館者実績が今一步及ばない点を検討し、新規来館者も増えている状況ですから親しみやすさや企画ポイントの明確化などの工夫をお願いします。 ミニ・ビブリオバトル：質的な取り組みは評価できます。今後さらに多くの参加者を募り運営するための手法の開発を検討してください。 場の提供は、同じ団体が定期的・継続的に利用してもらおう視点も必要です。アフターケアで意見収集し改善に役立ててください。</p> | <p>【評価できる点】 企画展だけでなく、幅広い領域への関わり見出して事業を展開している。 SNS やホームページの活用等、新しい情報発信手段の導入を図っている。 近隣商店街との連携を推進している。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 SNS の活用やアプリ開発に伴い、日々のメンテナンスや継続的な更新作業が求められる。それらの導入は望ましいことだと思われるが、いかに維持、管理していくかという体制づくりも合わせての検討が求められる。 近隣商店街等との連携が、短期間の単発的なもので終わることなく、継続的な関係となることを求める。</p> | <p>【評価できる点】 「大佛次郎×ねこ写真展」など新企画に積極的に取り組み、SNS での発信にも力を入れた結果、観覧者数の目標値を大幅に上回った。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 イベントがなかった9月の観覧者数が伸びなかった。イベントを毎月提示することでリピーターを呼び込めるのではないか。 夏休み子どもアドベンチャーの参加者が目標値を下回った。事前申し込み制とするなど手法の改善とともに、子どもが関心を持ちやすい内容も検討したい。夏休みなので読書感想文など自由研究対策に直接結びつけられる内容はどうか。 ハロウィンはクリスマスを上回る商業規模になりつつある。ハロウィンの代表的キャラクターの一つは黒猫なので、大佛記念館の猫ともつなげた企画があれば名所になれるのではないか。洋館でのハロウィン写真撮影、仮装して観覧した人にはネコグッズプレゼントなどで、新しい層を記念館に呼び込むきっかけにしたい。 文豪ストレイドッグススタンプラリー、ねこ写真展など観覧者数増加に結びついた企画が多かった。ねこ写真展は来場者増加にも結びついたようだが、スタンプラリーで来場した若者ら新たな層に大佛文学に触れてもらう努力も続けたい。</p> |

横浜市大佛次郎記念館 平成 28 年度指定管理業務（外部評価）

| | 金委員 | 富岡委員 | 中島委員 | 八ッ橋委員 | 米本委員 |
|-----------|---|---|--|--|---|
| Ⅱ 施設運営 | <p>【評価できる点】 記念館エントランスで紹介ビデオが放映され、記念館を訪れた人にどのような施設なのか知ってもらうのにより取り組みだと思えます。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 和室・会議室の利用については目標率を達成しておりましたが、平日の利用をさらに促進していくことが今後の課題になろうかと思われま。</p> | <p>【評価できる点】 館内イベント、ねこ写真展等を催し来館者数の増加、記念館をこれまで知らなかった方々への広報となっている。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 和室・会議室の利用率は目標に達しているが、和室 28.2%、会議室 35.2%の利用率は未だ十分とはいえないのでさらなる工夫と努力が必要だと思われる。</p> | <p>【評価できる点】 利用の安全面が運営のポイントです。施設利用で気がついたことを(ウッドデッキの新設など)即時実行に移せたことを評価します。今後も安心・安全を要にした運営を進めるよう心がけてください。</p> <p>入口でのモニター設置はこの施設が入館可能なミュージアムであることを知らせるという意味で有効です。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 「ねこ写真展」などの独自企画の展開については、次年度以降への継続(シリーズ化)や新たな要素を導入したカスタマイズが大変重要です。当館の目玉企画として根付かせてください。</p> <p>新しい取り組みは場合によって計画通りにいかず業務負荷が高まる可能性があります。事前計画立案の徹底や周知などを通じ過重労働対策を真剣に考えてください。</p> <p>入口モニター配置とともに、さらにウェルカム感(インバウンド含む)を出す工夫を入口付近で実施すべきだと感じます。</p> | <p>【評価できる点】 外国語表記への対応を図ったこと。 電子マネー決済を導入したこと。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 既存システムとの調整が可能であるならば、入館料以外への電子マネー決済対応も検討してほしい。</p> <p>電子マネー利用者による入館データの分析や活用が可能であるか検討してほしい。</p> <p>エントランススペースにおける看板等の工夫により、当館への認知向上を検討してほしい。</p> | <p>【評価できる点】 ウッドデッキ新設や展示ケース新規導入などは展示環境を改善した。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 市内中小企業への発注件数割合増加の努力は続けたい。経済局などと連携して情報収集したい。</p> <p>企画展は二階展示室の2つの壁面ケースにぎっしりと資料を展示するスタイルになっており、見づらい。新規来場者も関心を持ちやすいように、新規展示ケースなどを活用してわかりやすい展示方法を工夫してほしい。</p> |
| Ⅲ 維持管理 | <p>【評価できる点】 いつ訪れても美観を保つように心がけられているのが良いです。エントランスの紹介ビデオの設置や展示ケースも新しくなり、記念館の魅力を生かすことが出来たと思います。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 会館の修繕費は経過年数から考え、どうしても必要となる費用となりますので、具体的な資金計画が重要な項目だと思われま。</p> | <p>【評価できる点】 エントランスの紹介ビデオ、展示ケースの刷新など評価できる。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> | <p>【評価できる点】 資料の保存管理：温湿度の計測対応をデジタル化されたことを評価します。 設置者、指定管理者ともに施設の価値について共有されている点を評価します。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 修繕はライフサイクルコストを勘案した計画を委託業者に立てさせることをお勧めします。また、委託先との定期的なメンテナンス会議の実施も指定管理者が開催することをお勧めします。</p> <p>危機管理マニュアルは、ポケットハンドブックにして緊急連絡網も含めて携帯することをお勧めします。</p> <p>喫茶霧笛とは課題の共有や管理について、定期的に情報交換をしていただくようお願いいたします。</p> | <p>【評価できる点】 施設の管理や修繕に計画的に取り組んでいる。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 経年劣化や修繕の必要な箇所に対し、全館的な対応（一定期間の休館や費用負担など）が可能であるか検討してほしい。</p> | <p>【評価できる点】</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> |

横浜市大佛次郎記念館 平成 28 年度指定管理業務（外部評価）

| | 金委員 | 富岡委員 | 中島委員 | 八ッ橋委員 | 米本委員 |
|----------|---|--|---|---|--|
| IV 収支 | <p>【評価できる点】 視察した「大佛次郎×ネコ写真展 2017」では来場者が購入したくなるようなグッズが取り揃えてあり、良かったです。実際、ショップ売上は予想を上回る決算額となっており、指定管理料のみに依存しない収入確保につながったと思われまますので、今後も引き続きショップ売上についても期待したいです。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 今後、展示環境を整える投資等の資金計画を立てることが必要だと思われまます。</p> | <p>【評価できる点】 指定管理料を基盤に安定している。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 展示ケース 3 台購入は必要であったが、次年度からはあらかじめ予算立てをすることで赤字の数字を是正してもらいたい。</p> | <p>【評価できる点】 印税収入やショップ売上の伸びなど、活動成果が形となって現れており収益事業に取り組む上で今後の足がかりになったと思います。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 予算計画を立てる際に実施予定の計画内容をより精緻にすることでコストは暴れずに済みます。また収益を得られることを前提にした予算計画は赤字経営につながります。実行計画とコスト計画の精緻化を進め「正しい予算」設定を今後も引き続き徹底してください。</p> | <p>【評価できる点】 予算を上回る収入が得られたこと。入館者増につながる多様な企画を展開したこと。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 スタッフ数に対して、事業内容が過多となっている可能性がある。収入増は望ましいが、スタッフの配置や勤務時間に対してバランスのとれた管理運営がなされているか検討する必要がある。</p> | <p>【評価できる点】 事業収入、施設利用料収入、ショップの売り上げ増など全項目で予算を上回ったことは評価できる</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> |
| その他 | <p>模索しながらの平成 28 年度指定管理業務を、今後はどのような方向性を示していくのか明確にしていくことが課題になると思われまます。その際、業務過多に陥らないようにすることも考慮していただきたいです。</p> | | <p>館長を始め施設スタッフが明るくなったように感じまます。</p> | <p>様々な媒体等における「大佛次郎記念館」の表記に関して、ネームマークのフォントなどを中心としたロゴの統一を図ってほしい。</p> | |

| | 金委員 | 富岡委員 | 中島委員 | 八ッ橋委員 | 米本委員 |
|----|---|---|---|---|--|
| 総括 | <p>館長はじめ研究員・スタッフの方々が真摯に取り組まれた結果、地域とのネットワークを構築しながら、大佛次郎という作家の普及や子供たちの読書活動など幅広い文芸の推進につながったと思われまます。今後も広く市民のために是非、持続していただきたいです。</p> | <p>大佛次郎の文学と人を伝える意味で記念館の役割を十分に果している。</p> | <p>総じて目標は達成されており、入館者数の増加や新たな取り組みを実行できたことを評価したいと思います。スタッフそれぞれの取り組みが花開き始めているという印象を受けますし、さらに財団としての組織的なノウハウも活用し引き続き活性化に努めてください。当館のビジュアル・アイデンティティの確立は、施設の新たな姿勢を示し誘客を図る上でも効果的です。変更の計画を立て予算化を図り実行するようお勧めしまます。また、計画的な取り組みを進め、個別スタッフに負荷が集中することのないよう配慮をお願いします。同時に、実施可能な適切な予算計画を立てるようお願いします。</p> | <p>入館者数の増加等、実績面の数値から、一年間の業務運営が充実した内容であったと感じられる。「新しい文学館」という像に対して、テーマ展示による文学館らしさと、各種行事による集客とのバランスをいかに調和させていくかが、今後の課題であるように思われる。自己評価における「業務過多」との点に関して、行政評価においても何らか対応を検討されることが望ましい。</p> | <p>全般的に精力的な取り組みが見られたが、業務過多が否めないとのことなので、2 年目からは少し要領をつかみ、職員の健康管理にも留意してほしい。</p> |

| 評価項目 | | H28年度計画 | | 実施状況 | | 評価 | | | |
|-----------------------------|--|--|-------|------|----|--|--|---|------|
| I 文化事業目標 | | 指定管理者提案(要旨) | | 達成指標 | 目標 | 実績 | 説明 | 自己評価 | 行政評価 |
| 1 作品、旧蔵資料及び関連資料の収集、保存及び展示公開 | 資料収集 大佛次郎関連資料の寄贈を随時受付し、情報収集に努め、適切な収集を行う。 | ■新収資料を市民の財産として積極的に情報発信し公開。 おさらぎ選書「資料収集」コーナーへの掲載 | 実施 | 実施 | - | ・平成27年度の受贈資料26点をはじめとする新収資料情報を「おさらぎ選書」第24集に掲載 | 【成果】 ・病虫害対策の一環として、書庫内の大規模清掃を行うとともに、入り口に靴底吸着マットを設置し書庫内の環境保全に努めた。 ・収蔵資料の整理手順をフローチャート化することで、整理作業の全体像を共有しつつ、分業や作業の効率化を考える一助となった。 ・標記テーマ(～大佛次郎 人と作品～)の他、中央ガラスケースで上半期は「私の履歴書」と「フランスへの憧れ」、下半期は「ちいさい隅」のコーナーを設け、新収資料や新刊本『「ちいさい隅」の四季』にちなむ資料を紹介した。このことにより、新刊本のプロモーションができたと考える。 ・展示パネルの数、キャプションの情報を減らすことで、観覧者にとって分かりやすくまとめた。 ・大佛次郎の1958年の米欧旅行中に西子夫人に宛てた絵葉書全166通をまとめて、おさらぎ選書第24集で公開した。大佛次郎の米欧旅行についての今後の研究に役立てられる、良い資料公開の場となった。 【課題】 ・29年度の事業「オープンデー」では、外国人の来館を促すイベントを開催する予定であり、バイリンガル対応として、現在の日本語キャプションに加え、英訳キャプションの対応について検討が必要である。 ・今回初めて、ホームページ上での公開を目的とした所蔵資料目録(「自著」)の整理を進めたが、自著ゆえに、一般図書以上に詳細なデータを集める必要があり、700タイトル全てではなく、戦前期の142タイトル、670件に絞って整理を行った結果、540件が公開に値すると判明できた。その枠組み構築に時間を要したため、年度内の公開には至らなかった。28年度の経験を平成29年度の戦後分の整理を行う際に活かしたい。 ・今後、展示や時世に合わせ、順次資料を公開していきたい。 | 【評価できる点】 ・資料収集や資料保存について、適切な管理を実施し、目標通りに業務が遂行されたことを評価する。 ・常設展、愛蔵品展示コーナー、1階ロビー展示の3つの展示公開について、目標通り展示が実施されたことを評価する。 ・レファレンスサービスは目標を超える件数のレファレンスがあり、様々な層の方に資料の案内を行ったことで、資料の普及及び発信に努めたことを評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・ホームページへの収蔵資料目録の掲載及び検索アイテムの拡大のための取組であるデータカテゴリーの追加とホームページ上で新規に公表するデータ数が目標に達しなかった。今後は引き続き収蔵資料のデータの整理を進めると共に、資料の公開を目指して取り組まれることを期待する。 | |
| | 資料保存 (1)所蔵資料を後世に継承するため、資料の劣化を防ぎ、良好な状態を保つ。(毎日2回の点検・記録・調整の実施、特別書庫内使用の出入庫表への記録、年1回の燻蒸、月1回の資料整理、必要な資料の修復) | ■貴重な資料の管理や保護に注力し、自筆原稿等特に貴重な資料の管理に細心の注意を払う ■温湿度管理の徹底、中性紙箱に収める等の方法で資料の保全を行う | 実施 | 実施 | - | (1)多様な種類と形態をもつ資料の特性に留意しつつ、展示期間中の展示替えやレプリカの利用により状態の維持に努めた。デジタル温湿度計導入により、より正確な状況把握が可能になった。 (2)収蔵資料の整理手順のフローチャート化実施。 | | | |
| | (2)専門的な観点から収蔵資料の整理を行い、収蔵品展等に活用する。 | ■収蔵資料の整理手順を確立することで効率的に整理を行い、活用する 目標:整理手順の確立 | 実施 | 実施 | - | | | | |
| | 展示公開 (1)常設展(収蔵品展) 年1回 全体的な展示替え実施 年3回の企画展に合わせた内容の見直し 中央ケースでの新収蔵資料の展示 | □上半期、下半期と年2回に分けて「大佛次郎の生涯」にスポットを当てた収蔵品展を展示室で実施 目標:年1回の全体的な展示替え実施 | 年1回 | 年1回 | B | (1)平成28年12月収蔵品展の展示替え (2)4月に展示替えし、吉野秀雄との濃やかな交流を示す色紙や書簡などを通年展示 (3)大佛次郎の生涯と生地「横浜」をテーマとした写真パネル展示を通年実施。3月末に全てのパネルを新調した(展示替え)。 | | | |
| | (2)愛蔵品展示コーナー(年1回 展示替え) | □歌人吉野秀雄との交流に焦点をあてて関係した旧蔵資料等を愛蔵品展として記念室前展示コーナーで展示 目標:愛蔵品展示コーナー 年1回の展示替えの実施 | 年1回 | 年1回 | B | | | | |
| | (3)1階ロビー展示(年1回 展示替え) 年表パネル・写真パネルの展示 | □目標:1階ロビー展示 年1回の展示替えの実施 | 年1回 | 年1回 | B | | | | |
| | 資料公開(展示を除く) (1)閲覧室での図書の閲覧 | ■閲覧室での図書の閲覧の実施 | 実施 | 実施 | - | (1)閲覧室では和書洋書合わせて約1000冊の書籍を公開 (2)9/30に「おさらぎ選書24集」を発行。「大佛次郎とフランス」特集とし、1958年の米欧旅行中の夫人あて大佛次郎絵ハガキ全166通の翻刻を掲載 (3)大佛次郎の自著の内、戦前に刊行された書籍分約670件のデータを整理。年度内の公開には至らなかったが、平成29年6月末をめぐりに公開の予定で作業を進める。 (4)一般の来館者をはじめメディアや学界など幅広い層からの質問に答え、発信につとめた。 | | | |
| | (2)「おさらぎ選書」に目録を掲載。 | ■「おさらぎ選書」への目録の掲載 | 実施 | 実施 | - | | | | |
| | (3)ホームページに収蔵資料目録を掲載、検索アイテムの拡大 | ■データカテゴリーを追加 □ホームページ上で新規に公表するデータ数 | 実施 | 未達成 | C | 700件以上 540件 | C | | |
| | (4)レファレンスサービスの充実 | □レファレンスサービス件数 | 40回以上 | 58件 | A | | | | |

| I 文化事業目標 | 評価項目 指定管理者提案(要旨) | H28年度計画 | | 実施状況 | | 評価 | | |
|---|--|--|------------|-------------------------------|--|------|---|---|
| | | 達成指標 | 目標 | 実績 | 説明 | 自己評価 | 行政評価 | |
| 2 作品及び大佛次郎に関する調査研究及び情報の集積 | 大佛次郎の作品等に関する調査研究成果の展示、出版、講座・講演等による社会への還元 (1)テーマ展示の実施 | □テーマ展示 実施回数 | 3回 | 3回 | <p>(1)テーマ展示が前年度の3月から開始されるため、日時(年度ベース)と差異が生じる。28年度の小中学生観覧者数は、1,616人で、全体の8%近くを占めた。27年度の小中学生観覧者数より752名増加しており、1.5名の子どもを各家庭が同伴したと仮定すると501組となり、有料時に比して年間目標150組以上を大きく上回った。</p> <p>(2)テーマ展示Ⅲ「ロマン・ロラン生誕150年『大佛次郎とロマン・ロラン』」では第43回蠟梅忌(尾崎喜八研究者会合)と連携</p> <p>(1)磯貝コレクションから約100点を選びすぎり、コリントゲーム、メンコ、日光写真など、昭和世代にはなつかしく、現代の子ども達の目には新鮮に映るあそびを紹介。</p> <p>(1)会期中実施された「文豪ストレイドックス」のスタンブラリーの効果もあり、入館者数が大幅に増加した。</p> <p>(2)大佛次郎の旧蔵資料である、フランスの画家・版画家、ポール・ルヌアールの版画を記念館で大々的に公開する初めての試み。初公開を含む版画40点及び資料約30点を紹介。関連イベントとして、横浜アーツフェスティバル実行委員会主催「横浜音祭り2016」のパートナー事業、助成事業にエントリー。特別展示「絵になった音」で、ルヌアールの音楽に関連する版画を紹介するとともに、デジタル化した旧蔵SPレコードの音を展示会場で常時流すなど、文学、音楽、美術のジャンルを超える企画とした。(テーマ展示Ⅱ後期)。</p> <p>(3)大佛次郎が傾倒したフランスの作家、ロマン・ロランの生誕150年を記念する展覧会。第一部ではロランや、詩人尾崎喜八、フランス文学者小牧近江らとの交流を紹介し、第二部では、はじめてフランスを訪れた際に夫人に書き送った絵葉書からフランスへの思いを紹介するなど、資料約90点を展示。</p> <p>・9/30に「おさらぎ選書」第24集を発行。ロマン・ロラン生誕150周年を記念して、「大佛次郎とフランス」をテーマとし、論文「大佛次郎とロマン・ロラン」(安川篤子)、「関一と野尻清彦」(内海孝)及び、大佛次郎の西子夫人あて絵はがき166通の翻刻(1958年5月～7月)を掲載。</p> <p>・職員の退職のため、6月発行という当初の予定が遅れ、9月30日となった。</p> <p>(1)(2)テーマ展示Ⅱ「瞬間を切り取る画家 ポール・ルヌアール」で、大佛が収集した版画集「ドレフィス事件」と「動き、身振り、表情」より約50点を初公開。通常のダイレクトメール配布以外に、会期後期のチラシを中区町内会に配布したほか、ホームページ上でも発信。</p> <p>(3)平成29年1月～3月は、通常業務に加え、大佛次郎賞受賞記念講演会、「大佛次郎×ねこ写真展2017」、展示関連イベント開催、新規入札事務等が重なり、著しい繁忙期となったため、ブログのアップが間に合わない事態となった。</p> | B | 【成果】 ・テーマ展示Ⅰ「磯貝宏国コレクションVol. 2『鞍馬天狗ワンダーランドー昭和のあそび』」の会期中に行なわれた文豪ストレイドックススタンブラリー(5/2～6/5)と、テーマ展示Ⅲ「ロマン・ロラン生誕150年『大佛次郎とロマン・ロラン』」の会期中に開催した新企画「大佛次郎×ねこ写真展2017」(2/22～3/20)が、テーマ展示観覧者数をさらに大きく押し上げる効果をもたらし、これまでにない新しい顧客層の開拓ができたと言える。特に「大佛次郎×ねこ写真展2017」展への来場者は、2階のテーマ展示も熱心に観覧してくださる人が多く、大佛次郎記念館の周知に寄与し、来年度開催予定のテーマ展示Ⅱ「大佛次郎と501匹の猫」への集客に繋がる効果が期待される。 | 【評価できる点】 ・年間観覧者数が目標を4,000人以上上回ったことを高く評価する。 ・「大佛次郎×ねこ写真展2017」を新たな企画として実施し、大佛次郎の文章とコラボレーションした猫の写真や公募による猫の写真の展示等の趣向を凝らした展示を実施した。展覧会会期中の入館者数は2,979人となり、猫を切り口とした企画の実施により、新たな来館者層を開拓したことを高く評価する。 ・テーマ展示Ⅰ「磯貝宏国コレクションVol. 2『鞍馬天狗ワンダーランドー昭和のあそび』」の入館者数が目標を5,000人以上上回ったことを高く評価する。大佛次郎の著作「鞍馬天狗」を軸におもちゃの展示を行い、実際に遊ぶことのできるコーナーも設けられ、所蔵資料を様々な活用に活用し、紹介したことを評価する。 ・テーマ展示Ⅱ「瞬間を切り取る画家『ポール・ルヌアール』」では「音祭り2016」と連携した企画を実現し、収蔵品を活かしたコンサートを実施し、定員の30名を大きく超える応募となったことを評価する。 ・フランス国立図書館と協力し、研究資料を調査したことで、新たな資料を公開することに至っており、研究の成果が社会に還元されたことを評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・テーマ展示Ⅱ「瞬間を切り取る画家『ポール・ルヌアール』」及びテーマ展示Ⅲ「ロマン・ロラン生誕150年『大佛次郎とロマン・ロラン』」の入館者数が目標を下回った。今後は広報手法をさらに検討すること等により、入館者数のさらなる増加のために取り組む必要がある。 ・テーマ展示Ⅲ「ロマン・ロラン生誕150年『大佛次郎とロマン・ロラン』」の関連講座「大佛次郎の美味しいフランス紀行」は、参加者の満足度は高いものとなったが、参加者数が定員に達しなかった。今後はより効果的な広報の実施等により、参加者数の増加を図る必要がある。 ・フェイスブック及びツイッターのアカウント開設には至ったので、今後は情報発信の手段として、SNSを積極的に活用することを期待する。 ・文豪ストレイドックススタンブラリーとの連携により、新たな層の来館者を迎えることができた。今後は初めて来館された方に対して、再訪の動機付けとなる取組を検討されることを期待する。 |
| | | □観覧者数 (25年度実績 13,590人、26年度実績 14,732人) | 15,400人 | 19,684人 (日時ベース 20,563人) | | A | | |
| | | (2)調査研究の他機関との連携した実施 | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | | 実施 | | |
| | (3)調査研究の一連の発表機会との連動 | | | | | | | |
| | 企画展(テーマ展示)の開催(年3回) (関連講演・講座等の開催、財団運営施設等の主催講座への出張含む) (1)テーマ展示1 磯貝宏国コレクションVol.2 「鞍馬天狗ワンダーランドー昭和のあそび」 | □入館者数 | 5,200人 | 10,299人 | | A | | |
| | | ■昭和の遊び体験コーナーの開設 | 実施 | 実施 | | - | | |
| | | □入館者数 | 5,100人 | 4,481人 | | C | | |
| | (2)テーマ展示2 時間を切り取る画家「ポール・ルヌアール」 | ■アーツフェスティバル実行委員会事業と連携 サポート事業としての展示実施 | 実施 | 実施 | | - | | |
| | | ■アーツフェスティバル実行委員会事業と連携 助成金申請採択の場合、SPレコードコレクションを生かした企画の実施 | 実施 | 実施 | | - | | |
| | (3)テーマ展示3 ロマン・ロラン生誕150年「大佛次郎とロマン・ロラン」(仮) | □入館者数 | 5,100人 | 4,904人 | | B | | |
| □講演会等の関連事業 開催回数 | | 会期中1回以上 | 1回実施 | B | | | | |
| 7「おさらぎ選書」の発行 | ■「おさらぎ選書」第24集で、ロマン・ロラン生誕150周年を記念して、論文「大佛次郎のロマン・ロラン」、「野尻清彦と関一」及び大佛次郎書簡翻刻を掲載 発行予定年月:平成28年6月中 | 実施 | 実施 | - | | | | |
| 8 所蔵資料を用いた書籍・論文等の活用実績 (書籍の閲覧室での公開、受付での販売の実施) | | | | | | | | |
| 9 情報の集積と発信 (1)一般紙誌の掲載につながる話題の提供と積極的な働きかけ。 | ■新収蔵、初公開等の情報を発信 | 実施 | 実施 | - | | | | |
| | (2)ウェブ紹介による来館の動機づけ | ■新収蔵、初公開等の情報のウェブ紹介 | 実施 | 実施 | | | | |
| | (3)ブログやSNSを用いたタイムリーな発信 | ■SNSアカウントの開設・運用 ツイッターアカウントの開設 | 実施 | 実施 | - | | | |
| | | ■SNSアカウントの開設・運用 フェイスブックアカウントの開設 | 実施 | 実施 | - | | | |
| □ブログ更新回数 | 月5回 | 1-3月 未達成 | C | | | | | |

| 評価項目 | | H28年度計画 | | 実施状況 | | 評価 | | |
|--|---|---------------------------------------|------------|---------------|----|--|--|---|
| I 文化事業目標 | 指定管理者提案(要旨) | 達成指標 | 目標 | 実績 | 説明 | 自己評価 | 行政評価 | |
| 3 各種文化的行事の実施 | 各種文化的行事による大佛次郎及び作品の普及啓発 (1)横浜文学散歩 (2)大佛次郎賞記念講演会 朝日新聞社との共同主催で、大佛次郎賞受賞記念講演会を開催 (3)大佛次郎研究会公開発表会 (4)映画上映 | □開催数 | 年1回 | 年1回 | B | (1)(2)とも、目標数を上回る集客を達成。 (1)大佛次郎と直木三十五の関係を軸に、「富岡」を散歩。 (2)12月に受賞者が浅田次郎氏に決定したが、受賞者の日程の都合がつかず、29年度の4月13日開催となった。 (3)については、共催事業として資料作成や当日の運営などを協力。来場者数:春145人、秋82人。 | 【成果】 ・横浜文学散歩はコースを事前に知らせず、テーマも疑問形にして、ミステリーツアー仕立てにしたこともあり、予定人数を上回る応募があった。大佛次郎と直木三十五の生前交友関係、直木の死後の関わりについて、直木菩提寺の住職の話や現存資料で伝えることができた。終了後のアンケートでも高評価だった。 ・大佛次郎賞記念講演会は作家の都合により延期となった。(29年度4月13日に実施した。人気作家の講演のため、チケットの販売方法を事前申込制の抽選に変更し、より公平で効率的な販売方法とした結果、当日はスムーズな運営が行えた。) ・春・秋の和室公開は、茶室の施設と大佛の作品(俳句)を合わせて紹介する良い機会となった。 | 【評価できる点】 ・横浜文学散歩の参加者数が目標を上回ったことを評価する。大佛次郎及び作品の普及啓発のための場となったと考えられる。 ・和室公開では春季及び秋季共に目標の来場者数を上回ったことを評価する。特に春季の来場者数は1,000人以上となり、大佛次郎の俳句作品も紹介され、大佛次郎記念館の建物としての魅力と併せて大佛次郎の作品についても伝えることのできる場となった。 ・小学生ミニ・ビブリオバトルを継続して実施したことを評価する。ビブリオバトルの普及・啓発に努め、実際にビブリオバトルを体験してもらうことにより、子どもを中心として本に触れる契機を提供できたと考える。 |
| | | □参加者数 | 20人 | 22名 | B | | | |
| | | □開催数 | 年1回 | 翌年度に実施 | - | | | |
| | | □参加者数 | 240人 | - | - | | | |
| | 施設及び山手エリアの活性化 (1)和室公開(年2回) | ■大佛次郎研究会に対し、資料の閲覧、会議室の利用、選書への論文掲載等を支援 | 実施 | 実施 | - | (1)和室公開については、春季は春にちなんだ大佛次郎の俳句6点をパネル展示し、秋季は秋にちなんだ俳句7点を紹介。(和室公開期間 春:3/20~4/10、秋:11/27~12/11) (2)大佛茶亭公開は、春4/9、秋10/1に実施。主催の鎌倉風致保存会発表によると、春は618名、秋は374名の来場者数だった。茶亭での展示コーナーはテーマ展示入れ替えに合わせ実施。 | ・小学生ミニ・ビブリオバトルではビブリオバトルの普及のため、市内小学校を訪門し、本牧小学校では記念館職員によるデモンストレーションを行った。また北方小学校では授業の一環としての参加をしてもらえるよう記念館内で校内決勝戦の開催も行った。記念館でのイベント当日は、30名を超える見学者を迎える他、新聞の取材もあり、にぎわった。今回のイベントは記録動画の配信も行い、今後の普及に役立てる計画である。 | 【改善が必要と考えられる点】 ・親子での来館を促す企画を目標を上回る回数開催したことは評価できるが、「夏休み子どもアドベンチャー」の参加者数が目標を下回った。参加者目標の見直しを図る場合は、小中学生無料化に伴う大人の来館者の増加を図るという目的をふまえた企画のねらいや、事業内容の周知方法を改めて検討するとともに、開催場所のキャパシティを考慮する等、利用者の安全面にも配慮する必要がある。 |
| | | ■年2回開催される研究会公開発表会の共催、活動支援 | 実施 | 実施 | - | | | |
| | | □来場者数(春・秋) | 各400人 | 春1,159名、秋603名 | A | | | |
| | (2)大佛茶亭公開(年2回) | ■会場で書籍・グッズ販売、施設紹介を実施 | 実施 | 実施 | - | (1)7名の参加者エントリー。保護者や学校関係者など含めて約31名が参加。 (2)会議室でじっくり画を描く内容で、一度期に20名もの人を受け入れるのは、場所の広さから非現実的であった。 (3)子どもアドベンチャーに加えて、ハロウィンウォーク、「大佛次郎×ねこ写真展2017」が該当。 (4)7/16~8/31に実施 ・その他の事業 大佛次郎×ネコ写真展2017 2/22~3/20(22日間) 入館者数2,979人、1日あたり135人入館と好調、公募写真は665点。 | ・夏休み子どもアドベンチャーのイベント当日は、子どもたちが絵を描いている間に大人向けの展示解説を開催し、大人も子どもも楽しめる工夫を行った。また、後日には感想画を展示し関係者の再来館を促すことに成功した。 | |
| | | ■茶亭の展示コーナーで展示 | 年2回 | 年3回 | A | | | |
| | その他の事業(子ども対象事業の実施) (1)小学生ミニ・ビブリオバトル (2)夏休み子どもアドベンチャー | □中区との連携事業として開催 開催回数 | 年1回 | 年1回 | B | 【課題】 ・和室公開では、和室を引き立たせる展示、新しい手法での作品紹介を考え、ワンパターン化を避けたい。 ・「夏休み子どもアドベンチャー」の感想画という内容は、事前申込制にし、当日慌てずに参加できる方式がより馴染むのではないかと反省があった。 ・「大佛次郎×ネコ写真展2017」は初回の開催であり、今後の恒例行事化する予定であるが、公募写真の受付から、展示、投票と、長期間に渡り作業量が多く、さらに年度末には他の業務とも重なるため、スタッフの負担が増大しないよう、業務の平準化に向けた対策を考える必要がある。 | ・「大佛次郎×ネコ写真展2017」では、猫づくしの見て楽しい展示を行ったことで、猫という切り口で、新たな顧客層を取り込むことができた。これらの方々に、テーマ展も観ていただけたことで、入館者層の底上げに貢献できた。「猫といえば大佛次郎」という印象付けができ、来年度のテーマ展Ⅱの「大佛次郎と501匹の猫展」の告知の場としても活用できた。来館者が選ぶ猫の写真の人気投票も、参加型であることが好評だった。 | |
| □子どもたち・保護者の入館を促進 参加者数 | | 80人(保護者含む) | 37人(保護者含む) | C | | | | |
| □感想画展等、小中学生無料化に伴い、親子の来館を促す企画の実施 実施回数 | | 年1回 | 年3回 | A | | | | |
| ■県博物館協会主催ミュージアム・クイズラリー2016に参加、来館者増を図る。 | | 実施 | 実施 | - | | | | |
| (4)ミュージアム・クイズラリーへの参加による参加者増 | □参加者数 | 500人 | 208人 | C | | | | |
| | □大佛の愛した猫を切り口に、新規来館者層の開拓 実施回数 | 年1回 | 年1回 | B | | | | |
| その他の事業(観光客や新規来館者を呼び込む企画) 「猫」企画の実施 | □大佛の愛した猫を切り口に、新規来館者層の開拓 実施回数 | 年1回 | 年1回 | B | | | | |

| I 文化事業目標 | 評価項目 指定管理者提案(要旨) | H28年度計画 | | 実施状況 | | 評価 | | |
|--|---|--|------------|------|----|--|--|---|
| | | 達成指標 | 目標 | 実績 | 説明 | 自己評価 | 行政評価 | |
| 4 施設の有効活用及び文化団体等への活動の場の提供 | 記念館の雰囲気や建物の魅力を生かした利用の誘致 (1)学校茶道部等への和室利用促進 | □初釜、部活発表会等の利用案内の発送 発送回数 | 年1回 | 年1回 | B | (1)9月に、学校茶道部キャンペーン案内を郵送 (2)高校を訪問し、協力を依頼。快諾いただいた。英語での横浜ガイドを担当する先生と面談し、協力を依頼するなど、準備を進めた。 | 【成果】 ・結婚式の後、和室を利用しロケーションフォトを撮影したカップルに対して、許可をもらいブログへアップをすることで、広報活用できた。 | 【評価できる点】 ・29年度実施予定のオープンデイの開催に向け、目標通り関係機関と打合せを実施し、着実に準備を行ったことを評価する。 |
| | (2)平成29年度 近隣教育機関と連携し、オープンハウス実施準備 | ■平成29年度のオープンハウス実施に向けた打ち合わせの実施 | 実施 | 実施 | - | | ・会議室テラスに元からあった高さ違いの2つの段差が、利用者の転倒を招きかねなかったため、それを全てを覆いつくすウッドデッキを新設した。危険を防止しただけでなく、施設の魅力度も向上させることができた。 | ・商業撮影の誘致件数が目標を上回ったことを評価する。また、ウェディング撮影を誘致し実際の撮影風景をホームページに掲載したことで、撮影場所としてのPRができ、会議室及び和室の利用促進につながったと考える。 |
| | 会議室、和室の利用促進 建物の魅力を活かした撮影利用や、展示利用等を誘致します (1)ウェディング撮影 | ■ウェディング撮影を近隣のホテルや結婚式場と連携しての誘致 | 実施 | 実施 | - | (1)ウェディングプロデュース会社によるウェディング・ロケーションフォト撮影 年1回実施、ブログでも紹介を行った。 (2)ドレス撮影6件受入実施。 (3)着物の情報誌の撮影1件受入実施。 (4)北方小学校の授業の一環として、ミニビブリオバトル校内決勝戦を記念館サロンにて開催。 (5)大佛次郎研究会の会議室利用等を協力実施。 (6)天皇の世紀を読む会の成果発表会実施を支援。 (7)2/22~3/20(22日間)「大佛次郎×ネコ写真展2017」を会議室、和室を連続利用 | ・ホームページ上に、商用撮影利用時の申請手順を明記し、申請書式をダウンロードできるようにした。 | ・ホームページに和室及び会議室の空き状況ページを開設したことで、リピート利用に向けた方策が実行されたことと共に、利用者の利便性向上が図られたことを評価する。 |
| | (2)ドレス撮影 | □ドレス撮影会等、商業撮影の誘致 | 年5回以上 | 年8回 | A | | ・ティールーム「霧笛」との連携を目標通り実施されたことを評価する。ホームページ内にティールーム「霧笛」のページを新設したことにより、大佛次郎記念館と併せてティールーム利用の促進を図る一助となったと考えられる。 | |
| | (3)ファッション雑誌 | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 実施 | - | | 【課題】 ・和室の電気炭の購入、ステップの不安解消等の設備改善を検討したが、実施は次年度に引き継ぎとなった。 | 【改善が必要と考えられる点】 ・設備面やサービス内容等の改善事例について、発信可能な情報があったものの未実施となった。今後は効率的な情報発信の手法を検討しつつ、業務計画に見合った人員配置も併せて検討する必要がある。 |
| | (4)学校等の利用促進 ボランティアへの会議室の減免提供、小学生ミニ・ビブリオバトル参加校への会場としてのサロン提供 | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 実施 | - | | ・学校茶道部キャンペーンは、学校側の希望条件にあっていなかったことが判明した。今後は条件を見直す必要がある。 | |
| | (5)研究者団体への場の提供 大佛次郎研究会、フランス経済史研究会の活動支援 | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 実施 | - | | | |
| | (6)市民文化団体への場の提供 天皇の世紀を読む会の活動支援 | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 実施 | - | | | |
| | (7)その他 | ■撮影等、特徴ある利用実績を記録し、アピールに利用 ■主催または共催で、会議室の連続利用につながる展示事業の開催。 | 実施 | 実施 | - | | | |
| | レポート利用に向けた方策 (1)和室、会議室での附帯設備導入等による利便性向上 | ■附帯設備の充実の検討 | 実施 | 実施 | - | (1)会議室テラスにウッドデッキを新設など (2)2/22~3/20(22日間)「大佛次郎×ネコ写真展2017」を会議室、和室を連続利用 (3)新たに数茶碗と急須湯呑の貸し出しを開始し、ホームページ上で情報を掲載したが、SNSによる改善事例発信は未実施に終わった。 (4)29年1月より稼働 | | |
| | (2)会議室での自主事業の実施(簡易的な展示) | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 実施 | - | | | |
| | (3)会議室の利用者の意見を聞き設備面・サービス内容等を改善。 | ■改善を実施し、実績をホームページやSNSを通じ発信 | 実施 | 未実施 | C | | | |
| | (4)ホームページでの情報提供。 | ■ホームページに「和室・会議室空き状況」ページを開設 | 実施 | 実施 | - | | | |
| | ティールーム「霧笛」との連携 (1)相互割引の継続実施及び団体利用客への霧笛紹介。 | ■チケット半券ーレシートの提示による相互割引を継続。団体客や貸館利用者へティールームの利用の呼びかけ | 実施 | 実施 | - | (1)ティールーム「霧笛」での割引クーポンの配布を6月から開始することで、相互割引の告知を強化。 (2)飲食会場として「霧笛」利用の調整を行ったが、結果的には別会場となった。 (3)夏季限定で大佛フラッペの提供継続。 (4)ティールーム霧笛のページをホームページ上に新設。メニューや営業時間案内のほか、室内調度の魅力等も紹介。 | | |
| | (2)街コン実施に際しての霧笛利用に向けた調整 | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 実施 | - | | | |
| (3)記念館活性化プロジェクトで開発されたメニューの継続販売。 | ■記念館活性化プロジェクトで開発されたメニューの販売 | 実施 | 実施 | - | | | | |
| (4)広報協力 当館広報物への情報掲載等の実施 企画との連携メニュー等の相互の活性化に向けた協議 | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 一部実施 | - | | | | |

| I 文化事業目標 | 評価項目 指定管理者提案(要旨) | H28年度計画 | | 実施状況 | | 評価 | |
|----------------------------------|---|---|-----|-------------|----|---|---|
| | | 達成指標 | 目標 | 実績 | 説明 | 自己評価 | 行政評価 |
| 5 市民協働 及び地域との ネットワーク 構築 | 16 近隣教育機関との連携 | ■チラシ配布、ポスター掲示等で日常的な協力関係を築く。小学生ミニ・ビブリオバトル等の子ども対象事業実施の際、挨拶まわりを行い、参加を呼びかけ。 | 実施 | 実施 | - | ・小学校訪問、電話等での打合せ8回以上、中区小中学校校長会での参加依頼、北方小学校のビブリオバトル決勝戦を記念館で開催、本牧小学校へ出張してビブリオバトル紹介 | 【成果】 ・北方小学校では、授業の中に、ミニ・ビブリオバトルを取り入れていただき、決勝戦を記念館で行ったり、横浜山手芸術祭では、ユースギャラリーとして記念館での展示に参加くださり、密接な関係を作った。 ・近隣の西洋館とは、ハロウィンウォークに初参加し、記念館に馴染のなかった層に記念館を知っていただく良い機会となった。 ・これまでポンパドウルと良好な関係構築に努めた結果、その所属町内組織である元町SS会とも関係を持つことができた。その成果として、来年度の広報連携に向けて打合せを実施した。ポンパドウルには「大佛次郎×ねこ写真展2017」への賞品協賛もいただき、来年度の協力も確約いただいた。 ・横浜高速鉄道とはポスター掲示でご協力いただいた。ホテルニューグランドとは宿泊プランの他、3月からの「大佛次郎とヨコハマスピリット」展では貴重なカクテルグラス等の食器を借り受け、また、「大佛次郎×ねこ写真展2017」へ、お食事券等といった賞品協賛もいただいた。 ・横浜美術館と連携した展示「大佛次郎のモダン・ライフ 1920、30年代」は、美術館のカフェのモダンな造りと当該展示のテーマがよく合っていた。カフェでは記念館のPRビデオを流し、ミュージアムショップの特設コーナーでは大佛次郎や猫のグッズが好評だった。 【課題】 ・ハロウィンウォークは、参加者は多かったが、館外での受付だったため入館者増につながらなかった。入館者数を増やすための取組として、受付を館内に設け、閲覧を促す仕組みを今後検討する。 |
| | 近隣施設等との連携 (1)横浜山手芸術祭への参加 | □横浜山手西洋館ユースギャラリーの実施 内容:市立北方小学校児童作品を会議室に展示 期間:平成29年2月(10日間) | 年1回 | 年1回 | B | (1)横浜山手芸術祭:2/11~2/19 来場者248名 (2)西洋館クイズ:9月 趣旨にそぐわないため参加見送り (2)横浜山手西洋館ハロウィンウォーク:10/30初参加 参加者3,753名 (3)神奈川近代文学館との観覧者の相互割引は、記念館が手前に位置しており、記念館受付にて積極的に割引案内を実施 | |
| | 17 (2)山手西洋館との連携 | ■西洋館クイズへの参加 ■横浜山手西洋館ハロウィンウォークへの参加 ■山手通信への情報掲載 新規来館者増を目指すとともに「大佛」の読み方をクイズに採り入れるなど、大佛次郎及び作品、記念館を知ってもらう機会として活用。 | 実施 | 未実施 | C | | |
| | (3)県立神奈川近代文学館との連携 | ■神奈川近代文学館との観覧者の相互割引の継続 | 実施 | 実施 | - | | |
| | 近隣商店街等との連携 | ■近隣商店街等とのつながりを大切にし、関係性を深める。 | 実施 | 実施 | - | ・元町SS会と、来年度からの広報連携についての打合せを実施 (1)12/1より、冬季限定パン「ピコリキューのごほうびサバラ」販売開始。ポスター相互掲示実施、「大佛次郎×ネコ写真展2017」への賞品協賛をいただいた。 (2)当館ポスター掲示をテーマ展ごとに実施 (3)宿泊プランのチラシ配架、ホームページでのPRを継続いただいている。「大佛次郎×ネコ写真展2017」への賞品協賛いただいた。 | |
| | (1)元町商店街(元町SS会)との連携 ポンパドウルに、大佛次郎記念館活性化プロジェクトから生まれた商品の販売継続を働きかける。 | ■販売継続を働きかける。 | 実施 | 実施 | - | | |
| | (1)元町商店街(元町SS会)との連携 ポンパドウルとポスターの相互掲示を継続 | ■ポスターの相互掲示の実施 | 実施 | 当館ポスター掲示は実施 | - | | |
| | 18 (1)元町商店街(元町SS会)との連携 レシート提示による団体割引の適用の検討と商店街との協議 | | | | | | |
| | (2)横浜高速鉄道(株)との連携 横浜高速鉄道とポスターの相互掲示を継続 | ■ポスターの相互掲示の実施 | 実施 | 実施 | - | | |
| | (2)横浜高速鉄道(株)との連携 みなとみらい線のマップ配布等の実施 | | | | | | |
| | (3)ホテルニューグランドとの連携 大佛次郎ゆかりの「天狗の間」宿泊プランの継続を働きかける。 | ■宿泊プランの継続を働きかける。 | 実施 | 実施 | - | | |
| | 19 研究者団体の文化活動への場の提供 | ■大佛次郎研究会及びフランス経済史研究会との施設及び資料利用に関する協定を継続。 | 実施 | 実施 | - | ・大佛次郎研究会会員の資料利用等について協議を重ね、覚書を交わした。フランス経済史研究会ともコンタクトをとり、相互に情報交換する道筋をつけた。 | |
| | 20 財団施設及び他館との連携 | ■テーマ展示Ⅱ(ポール・ルヌアール展)の広報連携として、横浜美術館と、展示・商品販売等の連携を検討 | 実施 | 実施 | - | ・テーマ展示Ⅱの時期から横浜美術館との連携を協議、模索した結果、カフェ小倉山で「大佛次郎のモダン・ライフ 1920、30年代」と題し、3/25~6/25まで大佛次郎のモダンな生活を紹介するパネル展を実施することができた。併せて、ミュージアムショップに大佛次郎コーナーを特設した。 ・横浜みなとみらいホールと共催で、「2016みらいすとクラブメンバーの集いⅡ 試聴ラウンジ『文豪 大佛次郎の音楽館 SPLレコードコレクション徹底試聴』」を実施:10/15、16 於:横浜みなとみらいホールレセプションルーム 10/15 32名、10/16 24名 ・10月岩間市民プラザへ朗読作品提案、1月チラシ作成 | |
| | | ■【追加】横浜みなとみらいホールMiraist Clubイベント(大佛旧蔵SPLレコードを聴く)での連携 | 実施 | 実施 | - | | |
| | | ■【追加】29年度事業の連携:横浜美術館「ファッション展」連携カフェ展示、ネコ本、グッズ販売連携の調整 | 実施 | 実施 | - | | |
| | | ■【追加】29年度事業の連携:岩間市民プラザ 高橋長英朗読企画(H29/5/27)の調整 | 実施 | 実施 | - | | |
| | 市民協働 (1)NPO法人横浜シティガイド協会との連携 | ■ガイドに対するレクチャーを開催 ■同協会の業務による来館は団体料金を適用する協定を締結し、記念館へのツアーを促進。 | 実施 | 未実施 | - | (1)打合せを行ったが、先方の都合により実施見合わせ | |
| | 21 (2)記念館ボランティア組織編制 展示作業、イベント開催のお手伝い依頼スキーム作成 ボランティア登録にあたり、一般公募及びカルチャースタッフ経験者へ周知 | ■組織化に向け、ボランティアのメーリングリストを立ち上げ。 | 実施 | 実施 | - | (2)記念館にかつて勤務していた方への案内の実施 | |

| I 文化事業目標 | 評価項目 指定管理者提案(要旨) | H28年度計画 | | 実施状況 | | 評価 | | |
|--------------------|---|---|--------------------------|-------------|---------------------------------|--|--|---|
| | | 達成指標 | 目標 | 実績 | 説明 | 自己評価 | 行政評価 | |
| 6 広報・プロモーション活動等の推進 | 広報よこはま、地域のタウン誌、新聞紙面等による広報活動を継続。またSNS等を活用したプロモーション活動を行う。 (1) 記念館広報(紙媒体) 年間スケジュールチラシの配布 | <input type="checkbox"/> 年間スケジュール(3か月スケジュール)の発行 発行回数 | 年4回 | 年4回 | B | (1)年4回、(2)年6回、(3)テーマ展示のチラシ年3本、ミニ展示チラシ、ミニビブリオバトル、横浜文学散歩、大佛次郎×ねこ写真展2017公募チラシ、同左展示告知チラシ等、(4)年3回、(5)テーマ展示3本、「大佛次郎×ねこ写真展2017」、ミニビブリオバトル等、新聞記事掲出多数 | 【成果】 ・記念館紹介ビデオは、大佛次郎記念館を初めて訪れた人にも分かりやすく、大佛次郎の業績と記念館を紹介する内容(和文・英文)にした。 【課題】 ・今後他施設での放映も視野に入れ幅広く使用していきたい。 | 【評価できる点】 ・年間スケジュールの発行や大佛次郎記念館紹介ビデオの作成、ホームページの情報更新やCATV等での情報発信を目標通り遂行したことを評価する。 ・大佛次郎記念館紹介ビデオは大佛次郎の業績と館紹介の内容を和英共に作成し、館外からも見ることのできる館正面入り口のモニターにて放映を開始したことで、大佛次郎記念館の周知に貢献したことを評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・ブログの更新が1月から3月までの期間はできず、ツイッターの更新もできなかったため、目標に達しなかった。今後も引き続き計画的に広報・プロモーションの促進の取組を推進することを期待する。 ・今後は大佛次郎記念館紹介ビデオの活用を図り、さらに広範囲で施設の周知が促進されることを期待する。 |
| | (2) 記念館広報(紙媒体) 山手通信への情報提供 | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 年6回 | | | | |
| | (3) 記念館広報(紙媒体) イベントちらしの作成(年3回、各回10,000枚) | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 15種類 | | | | |
| | (4) 記念館広報(紙媒体) アートナビへの掲載 | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 年3回 | | | | |
| | (5) 新聞等掲載 市政記者発表、広報よこはま中区版への情報掲載依頼、タウンニュース中区・西区版への情報提供の実施 | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 55件 | | | | |
| | 23 大佛次郎及び記念館紹介ビデオの作成 | <input checked="" type="checkbox"/> 29年度に向け、紹介ビデオの企画・構成について検討し、作成、放映 | 実施(3月末まで) | 実施 | - | ・大佛次郎の業績と記念館を紹介する内容の約7分の動画が3/22に完成し、記念館の入り口での放映を開始した。 | | |
| | 24 ホームページを通じた情報発信及びSNSを活用したプロモーションの実施(ホームページ、ブログ、Facebook、Twitter、ヨコハマ・アートナビ、ヨコハマ・コードアートナビ等を活用) | <input checked="" type="checkbox"/> 和室、会議室の利用状況・空き状況を発信し、インターネットでの確認を容易にして、利用促進を図る。 | 実施 | 実施 | - | ・29年1月から、ホームページにて和室・会議室の空き状況画面を公開。 ・年間67万ビューを達成(目標40万ビュー) | | |
| 25 アプリの開発の検討 | <input type="checkbox"/> ホームページ情報更新 <input type="checkbox"/> ブログ情報更新 <input type="checkbox"/> ツイッター更新 | 月3回以上 月5回以上 週1回以上 | 月3回以上 1-3月未達成 開設のみ | B C C | | | | |
| 26 CATV等での情報発信 | <input type="checkbox"/> 大佛次郎記念館アプリ開発について情報収集 | 実施 | 未実施 | C | ・本年度は余力がなく未実施となった。次年度以降の実施としたい。 | | | |
| | <input type="checkbox"/> CATV等TV局からの情報発信:年3回以上 | 年3回以上 | 年3回以上 | A | | | | |

| I 文化事業目標 | 評価項目 指定管理者提案(要旨) | H28年度計画 | | 実施状況 | | 評価 | |
|--|---|---|------------|------------|---|---|---|
| | | 達成指標 | 目標 | 実績 | 説明 | 自己評価 | 行政評価 |
| 7 後世に継承するための記念館の活性化 | 大佛次郎作品の刊行協力等、大佛作品を読める環境整備 (1)「ちいさい隅」刊行協力 | ■神奈川新聞社発行「ちいさい隅」刊行協力及び普及 | 実施 | 実施 | (1)「ちいさい隅」の四季、5月神奈川新聞社より刊行 (2)「大佛次郎と猫」を記念館監修で、小学館より、2/22に刊行 (2)電子本配信の地元業者について情報収集 | 【成果】 ・大佛次郎著作本の絶版が続くなか、『「ちいさい隅」の四季」と「大佛次郎と猫」の2冊もの新刊を出すことができた。特に、「大佛次郎と猫」は記念館監修のため、印税収入にも繋がり、販売インセンティブ効果が高い。結果、当館ショップでの人気書籍のひとつにまでなった。 ・「大佛次郎と猫」は「大佛次郎×ねこ写真展2017」期間中での発売としたことで、相乗効果も生まれた。さらに次年度のテーマ展Ⅱ「大佛次郎と501匹の猫」の公式カタログとしての役割も持たせており、今年度に引き続き、来年度会期中においても販売数の増加が期待できる。 ・5月～6月に「文豪ストレイドックス」のスタンプラリーに参加、多数の来場者を獲得した。 ・3/5にねこ写真展と連携した街コンを開催、ねこの人気投票が功を奏し、参加者18名の事後アンケートは、満足度が100%となり、主催者側からも他の街コンと比較しても大変良い結果だったとの意見をいただいた。 ・ねこ写真展の時期に合わせて、ねこをデザインに取り入れた「謎解き」リーフレットを作成した。 ・団体説明は、39回と回数こそ目標に及ばなかったが、各回、お客様満足度は非常に高いものだった。(「また来たい、次は別の友達を連れてくる」などのお言葉をいただいた。) ・フランス関連資料の活用では、29点の資料を初公開した。 【課題】 ・文豪ストレイドックススタンプラリー参加者に記念館に興味を持ってもらうための、もうひとつ工夫ができれば良かった。今後は2階(展示室)へ誘導する案内を掲出すること等により、来館者に興味を持たせたい。 | 【評価できる点】 ・記念館監修の書籍「大佛次郎と猫」を発行し、「大佛次郎×ねこ写真展2017」期間中に合わせて販売したことで、展覧会との相乗効果が生まれたことを評価する。 ・文豪ストレイドックスのスタンプラリー拠点として参加することで、若い世代の来館につながったことを評価する。 ・「大佛次郎×ねこ写真展2017」と連携した街コンを開催し、参加者満足度が100%となったことを高く評価する。多様な用途に使用できる場所であることを周知し、大佛次郎記念館の活性化のための一助となったと考えられる。 ・過年度に実施された大佛次郎記念館活性化プロジェクトの成果継承として、謎解きクイズの企画を「大佛次郎×ねこ写真展2017」内で開催し、活用したことを評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・今後ねこ写真展を継続実施する際に「大佛次郎と猫」を展覧会の公式パンフレットとして活用する場合は、パンフレットの魅力が伝わるような販売手法を検討し、売上の向上に努めることを期待する。 ・団体入館者に対する解説の実施回数が目標を下回った。今後も充実した解説を実施すると共に、解説についての効果的なアピール方法を検討し、来館者サービスの一部としてさらなる展開が図られることを期待する。 |
| | (2)その他 | ■単行本未収録の作品の刊行や絶版本の復刊、所蔵資料を活用した出版への働きかけ 目標:大佛関連書籍の出版社からの発行 ■電子本配信の検討 | 年1冊 | 年1冊 | B | | |
| | フランス関連資料の活用 (1)企画展や常設展内展示コーナー等での展示 | ■テーマ展示Ⅱ及びⅢで展示活用 | 実施 | 実施 | - | | |
| | (2)横浜フランス月間への参加 | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 実施 | - | | |
| | 若者の来館促進 (1)スタンプラリー等参加 | ■キャンペーンイベント等のスタンプラリー拠点に参加 | 実施 | 実施 | - | | |
| | (2)街コン開催 | □街コンジャパン主催、財団協力の「横浜アートで街コン」に参加 | 年1回 | 年1回 | B | | |
| | 「大佛次郎記念館活性化プロジェクト」成果継承 | □継承企画の実施 | 年1件以上 | 年1件 | B | | |
| | 子どもたちが記念館に集う取組(再掲) | 「3 各種文化的事業の実施」及び「5 市民協働及び地域とのネットワーク構築」記載内容と同 | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 実施 | | |
| | 記念館オリジナルキャラクター「くらまくん」の露出による記念館のイメージアップ | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 実施 | - | | |
| | 昭和レトロを切り口とした、子どもだけでなくあらゆる世代が交流できる企画の展開の検討 | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 実施 | - | | |
| 32 スタッフの展示案内によるリピーターの確保(月5回以上) | □団体入館者に対する解説 | 年40回以上 | 39回 | B | | | |
| 33 愛猫家の側面に着目した、猫を活かした企画展開(再掲) | 「3各種文化的事業の実施」記載内容と同 | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 実施 | | | |
| 34 収入増及び健全な財務体質の実現に向け、個別事業評価システムによる自己評価、文学懇話会(会員構成:メディア・有識者等・市)の意見、年次評価等を活用したPDCAサイクルの構築 | ■個別事業評価システムによる自己評価の実施(計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 実施 | - | | | |
| | □文学懇話会の開催 | 年2回 | 年2回 | B | | | |
| | ■年次評価の実施(計画書に記載なし)(自己評価、行政評価、外部評価) | (計画書に記載なし) | 実施 | - | | | |

| II 施設運営目標 | 評価項目 指定管理者提案(要旨) | H28年度計画 | | | 実施状況 | | 評価 | |
|--|--|--|------------|--------------------|------|--|--|---|
| | | 達成指標 | 目標 | 実績 | 説明 | 自己評価 | 行政評価 | |
| 1 観覧及び市民・市民団体の教養活動のための施設の提供 | 1 観覧施設の提供 | ■大きな事故なく、開館 | 実施 | 実施 | - | ・臨時の休館などはなく301日間開館 | 【成果】 ・テーマ展示と同時期に行なわれた文豪ストレイドックススタンプラリーと、新企画「大佛次郎×ねこ写真展2017」(2/22～3/20)が、テーマ展示観覧者数をさらに大きく押し上げ、結果大幅な入館者数の増加となった。 【課題】 窓口が小さいため、一度期に大勢の来場者への敏速な対応が困難である。 | 【評価できる点】 ・和室及び会議室の利用率が目標を上回ったことを評価する。特に会議室は目標を10%以上上回る利用率となったことを高く評価する。 ・年間入館者数が2万人を超え、目標を4,700人以上上回ったことを高く評価する。また、一日の来館者数も目標を16人上回る結果となったことを評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・28年度は文豪ストレイドックスのスタンプラリーや「大佛次郎×ねこ写真展2017」といった契機を捉え、来場者数が大きく伸びた年度となった。今後も魅力ある企画の発信や、現在ある企画のさらなる磨き上げを図ることで、来場者数の向上とともに、大佛次郎記念館の広い周知が図られることを期待する。 |
| | 2 和室及び会議室の積極的な貸出、レファレンス対応(広報協力、感想・ご意見の収集、ホームページでの空き状況情報提供サービス等によるリピート利用促進等) | □目標利用率 和室 | 20%(日) | 28.2%(日) | A | | | |
| | | □目標利用率 会議室 | 25%(日) | 35.2%(日) | A | | | |
| | | □レファレンスサービス 対応数 | 40件 | 58件 | A | | | |
| 3 入館者数の増 | □年間入館者数 (参考: H25 15,770人 H26 16,678人) | 17,800人 | 22,507人 | A | | | | |
| | □一日の入館者数 | 59人 | 75人 | A | | | | |
| 2 利用者ニーズの把握及び利用者サービスの向上、アイデアノウハウの一層の活用 | 4 施設貸出の御案内、撮影等の貸出利用案内強化による利用促進(貸出施設の案内、ホームページへの撮影等の利用案内の掲載等) | ■29年度中のメールマガジンでの案内実施に向けた準備、利用者メールアドレスの取得開始 | 実施 | 実施 | - | ・20名の会員登録 | 【成果】 ・記念館エントランスと受付上の看板の開館・料金表示について、英語併記に改定した。来年度にむけ、和室・会議室案内板、順路誘導サインも変更するべく準備をした。 ・会議室テラスへのウッドデッキ新設と、展示ケースの新規導入は施設の魅力向上に大きく貢献した。特に展示ケースは、博物館施設として展示環境を大きく改善できた。 【課題】 ・suicaは入館料のみの対応であるが、ショップなどほかの商品販売時への拡大は、目録システムの大規模改訂が必要になるため現状では困難である。 ・「展示品の照明がやや暗い」というアンケートの改善対応にともなった展示ケースの新規導入について、迅速な発信ができなかったが、今後、折りを見て発信したい。 | 【評価できる点】 ・港のみえる丘公園内の案内板への英語併記や大佛次郎記念館正面入口にて放映した動画内や窓口での英語表示を実施し、案内及び説明表示の外国語表記対応を促進したことを評価する。 ・Wi-fiアクセスポイントの設置及びsuicaの設置の検討を目標通り実施し、利用者サービス向上の一助となったことを評価する。 ・利用者の安全な利用のために会議室前のバルコニーにウッドデッキを設置したほか、大佛次郎記念館正面入口に紹介ビデオを放映するモニターを設置する等、安全な利用に考慮しつつ施設の魅力を向上させるための調度品類の修繕及び更新が行われたことを評価する。 ・新規グッズの開発を目標通り実施したほか、猫関連のグッズ販売も実施したことにより、施設の魅力向上と収入の増加に寄与したことを評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・1階ロビー展箇所の英語併記について、引き続き実現に向けた検討が進められることを期待する。 ・Wi-fiやsuicaといった利用者サービスについて、館の運営が効率的になるような運用方法を検討し、利用者の利便性向上のために活用することを期待する。 ・大佛次郎記念館のオリジナルグッズを含めたグッズ販売について、より商品の魅力を伝えるような販売手法を検討し、さらなる売上向上につながることを期待する。 |
| | 5 アンケート等による利用者ニーズの把握(和室無料公開の継続、会議室の学校関係の利用の促進、利用者へのアンケート及びインタビュー調査の実施等) | ■来場者に対するアンケートを実施。月毎の集計を行い、館内スタッフに迅速なフィードバックを実施 ■改善事例をホームページ、SNS等で情報発信 | 実施 | 実施 | - | ・毎月かさかさ実施 ・アンケート等による利用者ニーズへの改善事例の発信については、SNS等での情報発信ができなかった。 | | |
| | 6 要望・苦情への対応(要望・苦情の館内・財団・市との適切な共有と対応) | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 実施 | - | ・翌月上旬には、アンケート結果をまとめ、館内で回覧、市とのモニタリングの場でも共有を行った。大きな苦情は年間を通じてなかったが、「展示品の照明がやや暗い」というアンケートでの指摘には、新しい展示ケースの導入がその対応のひとつとなったと言えよう。 | | |
| | 7 案内・説明表示の外国語表記対応 | ■案内パンフレットの英語版作成(外国からの入館者に積極的に配布) | 実施 | 実施 | - | ・公園外、エントランス、受付上に英語併記の看板設置 | | |
| | | ■公園内案内板の英語併記 | 実施 | 実施 | - | | | |
| | | ■1階ロビー展示部分の英語併記 | 一部実施 | 一部実施 | - | | | |
| | 8 展示解説や団体向け解説を実施(再掲) | 「7 後世に継承するための記念館の活性化」と同 | | | | | | |
| | 9 Wi-Fiアクセスポイント設置 | ■Wi-Fiアクセスポイント設置 | 実施 | 実施 | - | ・3月設置 | | |
| | 10 電子マネー決済の導入 | ■suica導入の検討 | 実施 | 実施 | - | ・3月(株)ビューカードと契約 | | |
| | 11 施設の魅力を向上 | ■調度品類を修繕・更新 | 随時実施 | 随時実施 | - | ・展示ケース、掲示板、案内板等の更新 | | |
| | 12 オリジナル商品の開発及び図書の販売(話題性のある商品の開発・販売、一般書店では手に入りにくい図書類の販売、文庫本へのオリジナルカバー付加、通販対応の継続とホームページでのPRの実施) | □新規グッズ開発 開発数 | 1アイテム以上 | 1アイテム+新規買取開始グッズ15点 | A | ・大佛次郎著作物以外にも、「猫」を扱ったバックナンバーの雑誌を販売 | | |
| | | ■一般の書店で手に入りにくい図書類を販売 | 実施 | 実施 | - | | | |
| | 13 エントランスでの利用促進及びサービス向上の取組(大佛次郎の愛用品展示、大佛次郎の紹介映像の放映) | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 実施 | - | ・大佛次郎の業績と記念館を紹介する内容の約7分の動画が3/22に完成し、記念館の入り口での放映を開始した。(再掲) | | |

| II 施設運営目標 | 評価項目 指定管理者提案(要旨) | H28年度計画 | | 実施状況 | | 評価 | |
|--------------------------|---|---|--------------------------------------|--------------------------------------|---|---|--|
| | | 達成指標 | 目標 | 実績 | 説明 | 自己評価 | 行政評価 |
| 3 組織的な施設運営 | 13 適切な運営組織体制と人材の配置(館長1、事務職員2、研究員2、研究室補助員1、特任研究員1、専門員1、カルチャースタッフ4) | □館内会議の実施 研究室会議、合同会議、企画会議 | 研究室会議: 月1回 合同会議: 月1回 企画会議: 月1回 | 研究室会議: 月1回 合同会議: 月1回 企画会議: 月1回 | ・毎月かさかさ実施 | 【成果】 ・文化財の虫菌害・保存対策研修会は、当館所蔵の書籍の保存に有益な情報が得られた。 【課題】 ・職員については年間最低1回何らかの研修を受講をすることを目標にし達成しているが、最小限の人数で運営であること、業務と予定が重なることが多く、希望どおり参加できなかった。早期に情報を収集し計画的な研修受講を推進したい。 | 【評価できる点】 ・適切な施設運営に努めたことを高く評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・職員の能力向上のための研修等の機会が十分にとられていないのは改善されるべき事柄であると考えられる。今後は計画的な研修等の受講を検討されたい。 |
| | 14 文学館の専門性、公共の施設として適切な人員を配置。 職員の能力向上のため、研修を実施。(OJT、MBO、財団・市実施の研修、外部研修への参加) | ■29年度に向けた研修や資格の受講・取得区分の仕分け ■展示の企画立案、資料等の研究・整理等の能力を有する職員の配置(研究室) ■全国文学館協議会会議に参加し、文学館同士の情報共有・連携強化 | 実施 配置 実施 | 実施 配置 実施 | ・業務で参加する研修かどうかを都度検証 ・展示は2名の職員がメイン。特任研究員と専門員が助言でサポート。 ・全国文学館協議会会議: 6/15 ・県博物館協会研修4/28、横浜観光研修5/20、文化財の虫菌害・保存対策研修会6/16~6/17 | | |
| | □専門研修への参加(研究室スタッフ)参加回数 | 年1回以上 | 年3回 | B | | | |
| | | | | | | | |
| 4 個人情報保護等、本市の重要施策を踏まえた取組 | 個人情報保護・情報公開、人権尊重、環境への配慮、市内中小企業優先発注等の取組の実施 (1)個人情報保護 個人情報取扱マニュアルの作成と年1回以上の改定・見直し及び職場内研修の実施、個人情報の適切な取り扱いによる事故防止 | ■個人情報漏洩などに関する事故 | 0件 | 0件 | (2)ホームページのフッターより業務計画・報告のダウンロードを可能としている。 (3)障害者差別解消法での対応についての職場内研修は行ったが、接客研修は未実施。 (4)年度初めに、省エネルギー・節電に関する方針を策定し、こまめに設定温度を変更するなど、省エネに努めた。 (5)燃えるゴミ以外のごみ、資源ごみ(紙・段ボール・瓶缶ペットボトル等)として分別。文書類は、シュレッダーもしくは溶解で対応し、情報漏洩に配慮した。 (6)発注件数割合は、約6割であった。 | 【成果】 ・個人情報流出を防ぐために名簿管理については、紙情報は必ず施錠できる書棚での保管を徹底し、PCデータもパスワード設定を必須とした。市内中小企業優先の発注は、昨年度同様に推進した。 【課題】 市内中小企業への発注件数の割合は目標を下回ったため、一層取組みを強化していくが、記念館に特有な事情等の分析を進め、契約の定義や範囲等に課題があれば、横浜市と協議の上見直す等、実効性のある目標管理が可能となるようにしたい。 | 【評価できる点】 ・個人情報の取り扱いや業務計画書及び報告書の公開について、目標通り適切に業務を遂行したことを評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・市内中小企業への発注件数及び金額の割合については、目標を下回る結果となった。今後も引き続き趣旨をふまえた発注を期待する。 |
| | (2)情報公開 | ■業務計画書、報告書のホームページでの公開: 実施、PDFのダウンロード | 実施 | 実施 | | | |
| | (3)人権尊重 横浜市主催の人権講演会への職員の参加、職場内研修の実施、受付職員を対象とした接客研修の毎年度の実施 | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 一部実施 | | | |
| | (4)省エネルギー・節電 節電への取組、クールビズ及びウォームビズの実施と来館者への取組周知 | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 実施 | | | |
| | (5)ごみ 「ヨコハマ3R夢プラン」に基づく取組の実施、ごみの軽減化の取組、印刷・コピーの適切な節制、文書の適切な処分 | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 実施 | | | |
| | (6)市内中小企業優先発注 特別な専門性が必要な契約等を除く発注の市内中小企業への優先 | □市内中小企業への発注 | 9割以上(件数、金額) | 6割程度 | C | | |

| Ⅲ維持管理目標 | 評価項目 指定管理者提案(要旨) | H28年度計画 | | 実施状況 | | 評価 | | | |
|-------------------|---|---|------------|-------------|--|--|--|---|--|
| | | 達成指標 | 目標 | 実績 | 説明 | 自己評価 | 行政評価 | | |
| 1 施設及び設備の維持保全及び管理 | 施設の安全・安心・快適環境維持と長寿命化対応の実施 | ■施設運営に支障がでないよう管理 | 実施 | 実施 | - | ・来館者に影響を与える事故なし | 【成果】 ・迅速な連絡体制ができていた。記念館の業務についても横浜市文化振興課の職員や、財団事務局施設担当者に直接見ていただける機会を積極的に設けることができた。 | 【評価できる点】 ・施設及び設備の管理について、適切に業務を遂行したことを評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・特筆すべき事項なし。 | |
| | | ■館建設から37年経過し、建物、設備に劣化が進んでいるので、必要な修繕を実施するように調整 | 実施 | 実施 | - | | | | |
| | ■必要に応じ市と協議 | 実施 | 実施 | - | | | | | |
| 2 | 保守点検、備品管理、環境維持の実施 (1)備品の物品管理簿での管理、年度末の棚卸の実施等の実施による適切な管理 (2)消耗品の適切な管理・購入による経費節減と発注事務の軽減 (3)大佛次郎遺品類及び関係資料の適切な管理(日常的な確認・点検の実施) (4)施設設備の不具合早期発見のための自主点検の実施 | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 実施 | (1)適切に実施 (2)必要最低限での購入を実施 (3)適切に実施 (4)毎月実施 | B | 【課題】 ・開館から40年近くが経ち、設備面での経年劣化が進んでいる。大規模修繕についての計画を視野に入れたうえでの運営が必要である。 | | |
| | | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 実施 | | | | | |
| 3 | 適切な環境維持管理業務の実施 (1)業務の基準の遵守及び見回りによる清掃の即時対応の実施 (2)公園の管理区域内の環境維持、公園管理者との連絡調整 | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 実施 | (1)美観を保つよう、適切に清掃を実施 (2)ビデオ撮影、通行許可証の依頼を公園緑地事務所へ実施 | - | | | |
| 2 小破修繕の着実な実行 | 小破修繕の取組 (日常点検で把握した故障等への都度対応による修繕費等の支出抑制、財団のサポートによる効果的・効率的な修繕の実施) | ■随時実施 | 随時実施 | 随時実施 | - | ・トイレ洗面台排水修理、照明工事、喫茶カウンター修理等 ・修繕等の実績については、周知すべき案件がなかったため、情報発信に至らなかった。 | 【成果】 ・利用者アンケートからは、快適な施設であると、概ね満足いただいていることが伺える評価が出た。 【課題】 ・開館後38年経っており、修繕が必要だと思われる箇所が多数ある。費用面に加え、施設の構造上工事が難しいという懸念がある。また、現状の休館日では工事の対応ができないことも課題である。 | 【評価できる点】 ・小破修繕及び自主点検、市との情報共有が適切に実施されたことを評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・今後の施設管理において、建物や設備等の耐用年数を把握し、計画的な修繕計画を立て、日常的に管理することで、効率的な施設修繕を実施することが求められる。 ・今後は利用者のサービス向上につながるような改善事例の積極的な情報発信について、取り組まれることを期待する。 | |
| | | ■不具合早期発見のため自主点検を実施 月1回(再掲) | | | | | | | |
| 3 事故予防及び緊急時の対応 | 事故防止体制・防犯、緊急時の対応・感染症対策等衛生管理の実施 (1)全体管理について (2)危機管理マニュアルの整備と必要に応じた改訂 (3)職員及びカルチャースタッフによる館内の見回り・点検の実施 (4)インフルエンザ流行時のポスター掲示、鳥インフルエンザへの留意、ノロウイルス対応の準備と2次感染防止策の徹底 (5)緊急時の連絡体制 財団事務職員1名による兼務と必要に応じた派遣、関係各所との緊急連絡網の作成と緊急時の速やかな報告・相談の実施 (6)AED設置及び研修 消耗品等の定期的な更新・交換、財団主催の操作研修への全員参加 | ■施設運営に支障がでないよう管理 | 実施 | 実施 | - | (1)防災訓練の実施、ヒヤリハット事例の共有化を図り、スタッフ全員の危機管理能力向上を図った。 (2)危機管理の書類を一元化し、その所在の周知を図った。大判印刷した緊急連絡先を事務室内に掲示。 (3)職員、カルチャースタッフそれぞれ毎日2回以上館内見回り実施励行 (4)周知ポスター掲示、感染症対策としてノロ対応セットを新調 (5)年度当初及び職員の異動がある毎に、速やかに連絡網を作成し、横浜市や財団本部と共有した。また、緊急時の連絡体制等の全員確認、ティールーム霧笛内で緊急事態発生を事務室に知らせるためのチャイムの設置も行った。財団事務局には支援要員1名配置。 (6)コンプライアンス研修実施、AED研修への参加実施 | B | 【成果】 ・事務処理ミス発生ゼロ 【課題】 監視カメラの台数を増やすなど、監視装置の充実が必要である。 | 【評価できる点】 ・適切な事故予防及び緊急時の対応のための取組が遂行されたことを評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・引き続き不審者対応等含めた緊急時の対応について検討し、館全体での共有を図ることを期待する。 |
| | | □館内巡回 実施回数 | 館内巡回 1日2回 | 館内巡回 1日2回以上 | | | | | |
| | | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 実施 | | | | | |
| | | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 実施 | | | | | |
| | | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 実施 | | | | | |
| | | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 実施 | | | | | |
| 4 防災に対する取組 | 日常の取組、危機管理マニュアルの整備、防火・防災の取組、災害備蓄等の実施 (1)危機管理マニュアルの適宜見直し及び改訂 (2)避難訓練 自衛消防組織の結成、防災計画の作成、危機管理マニュアルに基づく年2回の避難訓練の実施 (3)緊急事態に備えた飲料水、非常食、毛布等の備蓄 | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 実施 | (1)危機管理の書類を一元化し、その所在の周知を図った。大判印刷した緊急連絡先を事務室内に掲示。(再掲) (2)地元消防出張所長の指導のもとに9月に訓練実施・2月には職員のみでの自主訓練を実施。マニュアルに頼るだけでなく、実践的な訓練を実施。 (3)使用期限に注意しながら適切に補充保管。 | B | 【成果】 ・少人数体制時での訓練に力を入れ、職員・スタッフの危機意識を高めた。 ・消防出張所長からは、訓練の内容について良い評価を得た。 【課題】 ・2階にいる人で、階段で逃げられない人が出た場合の誘導に不安がある。 | 【評価できる点】 ・防災訓練を目標通り実施したことを評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・今後も様々な事態を想定した実際の発災時に近い訓練を実施されることを期待する。 | |
| | | □防災訓練 実施回数 | 年2回 | 年2回 | | | | | |
| | | (計画書に記載なし) | (計画書に記載なし) | 実施 | | | | | |

| IV収支 | 評価項目 指定管理者提案(要旨) | H28年度計画 | | 実施状況 | | 評価 | | | | |
|------|--|---|-----------------------|------|--|--|---|---|------------|---|
| | | 達成指標 | 目標 | 実績 | 説明 | 自己評価 | 行政評価 | | | |
| 1 | 適切な収支構造及び収支バランス | ■優先順位を見極め、緊急度の高いもの、必要性の高いものから執行を検討し、提案した収支表に準じ、適切な収支管理を行う | 実施 | 実施 | ・約▲245万円 | 【成果】 ・事業収入、施設利用料収入、雑入(ショップ収入など)すべての項目で、予算額上回る収入を達成することができ、中でも印税収入といった持続可能な新たな収入源をも得ることができた。収入総額で、予算比3割近く増加させることができた。 ・展示ケースの更新等、今後につながる投資を行った。 | 【評価できる点】 ・収入が予算と比較し150万円以上上回ったことを評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・収支差額がマイナスで約245万円ほど発生しているので、今後はより計画的な資金計画を立て、収支のバランスに配慮した運営がされることを期待する。 | | | |
| 2 | 指定管理料にのみ依存しない収入確保の取組 (1)利用料金収入の確保 有料入館者増に向けた取組の実施、企画展におけるマスコット作成と配布 (2)おさらぎ選書への広告掲載、企画展の協賛依頼、助成金への積極的な応募の実施 (3)ショップ売上目標の設定 | ■有料入館者数増にするため、観光客・団体客の増 (計画書に記載なし) | 実施 | 実施 | (1)新規展覧会「大佛次郎×ネコ写真展2017」の実施 (2)おさらぎ選書の広告、テーマ展示への協賛についていずれも前年同様に依頼。この他、新たな展示「大佛次郎×ねこ写真展2017」では新たに賞品協賛協力を依頼。書籍「大佛次郎と猫」では、印税収入を今後も望めるよう監修に努めた。 | 【成果】 ・記念館は敷居が高いと思われるが、より気軽に感じてもらえる内容の展覧会を会議室で開催する初めての試みにより、入館者数を大きく増やすことができた。同時にショップの売上も大幅増となり、相乗効果が見られた。 【課題】 ・年度末の多忙な時期とも重なり、職員・スタッフの疲労が大きく、これを減らすための工夫が今後必要となる。 | 【評価できる点】 ・ショップ売上金額が目標を40万円以上上回ったことを評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・今後も観光客や団体客等の入場者数の向上を図ると共に、グッズの売上向上にも取り組まれることを期待する。 | | | |
| | | | (計画書に記載なし) | 実施 | | | | 1,500,000円 | 1,916,454円 | A |
| | | | □ショップ売上目標 目標金額 | | | | | | | |
| 3 | 経費削減等効果的運営の努力 (1)発注、事務処理上の留意点 契約にかかる経費削減、支払い時の事務処理時間及び振込手数料の削減、計画的な発送処理による作業時間及び郵送経費の削減、廃棄物の削減 (2)施設、設備管理上の留意点 早期対応による設備の長寿命化の実現と修繕費の節制 省エネルギーのための取組と光熱費の節減(管理費の多くを占めている光熱水費を節約することで、コストの削減につなげる) (3)コスト意識 職員の超過勤務削減、業務分担の平準化、業務の外注化等の促進、効率的で適切な勤務体制の実施 | (計画書に記載なし) | 実施 | 実施 | (1)手数料削減に留意した経費執行実施 (2)ガス契約の解除や、漏水など異常がないか日頃からの点検の実施 (3)超過勤務時間の削減目標の周知 | 【成果】 ・ガス料金は、不要な契約の解除などにより削減を実現。 【課題】 ・利用者数増と光熱水費の増は比例するため、より効率的な運用が必要となっている。 ・展示替え時期、年度末に特に繁忙期となっている。業務の平準化のために業務の外注化などの検討を進める。 | 【評価できる点】 ・不要な光熱水費の削減に努めたことを評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・特筆すべき事項なし。 | | | |
| | | | (計画書に記載なし) | 実施 | | | | -5.84% (電気 3.24% 水道 - 29.62%) | | |
| | | | □電気・水道使用量 前年度比マイナス | | | | | | | |
| その他 | 特記(提案事項要旨) | 達成指標 | 目標 | 実績 | 特記事項 | 自己評価 | 行政評価 | | | |
| | | | | | | 【成果】 | 【評価できる点】 | | | |
| | | | | | | 【課題】 | 【改善が必要と考えられる点】 | | | |
| 総括 | 特記(提案事項要旨) | 達成指標 | | | 特記事項 | 自己評価 | 行政評価 | | | |
| | | | | | | 指定管理1年目としての平成28年度は、年間入館者数を、年度目標より26%も多く、昨年度よりも32%多い数字を記録できた。これは10年ぶりの記録となった。ミニマムな職員体制で、大きな事故や問題なく、このような数字を出せた裏側には、職員スタッフそれぞれの業務への真摯な取り組みがあつてこそその成果である。ただ、業務過多となったことは否めなく、職員の健康管理などに課題が残っている。 | 指定管理開始初年度として、概ね計画通りに事業の実施がされました。テーマ展を計画に沿って着実に開催したほか、「大佛次郎×ねこ写真展2017」といった新たな魅力ある展覧会を開催したこと等により、22,507人という来館者数となったことを高く評価します。今後も来館者数の増加に向けて、より一層取り組まれることを期待します。施設の管理運営について、適切に行われたことを評価します。今後も館全体で連携を図ることで、引き続き適切な施設の管理運営を行ってください。各々の業務について、丁寧かつ着実に遂行したことを高く評価します。しかしながら、計画通りに遂行できなかった業務も見受けられますので、課題の解決に向けた取組を検討してください。 | | | |